



校長室の窓

とど

「こだま」する 10m のあいさつを届けていますか？

福栄小中学校と同じように、まわりを山で囲まれたある学校の要覧(その学校の様子を紹介する資料)を見てみると、その学校のチャレンジ目標(福栄小中学校で言えば、「山口県一の福栄のみ・そ・あ・じ」)の中に「こだまするあいさつ」という言葉がありました。私は、この言葉がとても気に入りました。「こだま」とは、山に登って、「ヤッホー」と大きな声で叫ぶと、まわりの山々にその声が反響して「ヤッホー」とはね返ってくるあのこだまです。



朝、学校の北門の所に立って、登校して来る皆さんを待っていると、10m どころか、50m も離れた場所から、「おはようございま〜す」と元気な声であいさつを届けてくれる人が何人もいます。そのようなあいさつの声を聞くと、本当に朝から気持ちがよくなります。「おはようございま〜す」と大きな声であいさつしても、実際にはその声がまわりの山々にこだますることはありません。しかし、心を込めて相手に届けたあいさつは、間違いなく相手の心の中でこだましているということです。そして、あいさつした人の心の中でも、心地よくこだましているのではないかと思います。

「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」という心がこもった元気なあいさつが、毎日あたりまえのように学校の中に飛び交い、あいさつをした人もされた人も、心の中であいさつがこだまする学校にしていきましょう。「山口県一美しい学校」とは、そんな学校ではないでしょうか。

朝、学校に来る途中、皆さんの登校を地域の方や保護者の方が見守ってくださっています。また、学校から帰る時、地域の方に出会うこともあるはずですが、皆さんは地域やスクールバスの中でどのようなあいさつをしていますか。自分から先に相手の心にこだまするあいさつを届けてください。心がこもった元気なあいさつと会釈は、地域の中で小中学生の皆さんが毎日「地域のためにできること」です。「こだまするあいさつ」が飛び交う福栄地域にしていきましょう。そして、その役割を福栄小中学校の皆さんが果たしてほしいと願っています。

